

いじめ対応マニュアル

調布市立染地小学校

いじめ根絶にむけて

◇◇ 日常からいじめが生じないための学校の取組 ◇◇

◆ いじめ撲滅大原則「するを許さず」「されるを責めず」「いじめに第三者なし」◆

- どのような状態をいじめととらえたらよいか。その表れ方や児童の心理には、どのような特徴があるか。
- いじめを生じさせないため、各学校がしなければならないことは何か。
- いじめの早期発見・早期対応は、どのような視点での指導が大切か。
- 各学校での指導体制，保護者との連携をどのように図っていくか。

1 いじめについての基本的な認識

(1) いじめの定義（「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」から）

「いじめ」とは、

当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。

いじめの状況は、児童の様態や行為，その頻度，児童同士の関係などから次のようにとらえる。

- ① 児童同士が対等の関係ではなく、いじめられる者に精神的な苦痛を感じさせている。「弱い子」だけがいじめにあうのではない。
- ② 心理的，身体的に苦痛を伴う攻撃を加える。この苦痛の程度は受ける者によって異なる。
- ③ いじめには、加害者，被害者の関係だけでなく，観衆（はやし立てる，面白がって見る等），傍観者（見て見ぬ振りをする等）がいる場合がある。

(2) いじめに対する基本的な視点

いじめはかけがえのない児童の生命を奪うことがあるだけでなく、いじめに関わった全ての児童の人間形成に多大な影響を与え、人と人との関係を破壊することにもつながる深刻な問題である。

- ① いじめを単なるけんかやトラブルとして受け止めず，人権侵害，差別の問題として受け止める。
※人間関係を破壊したり，人間形成を阻害したりするもので，時には生命の危機にも関わる重大な問題であると受け止める。
- ② 「いじめられる側にも問題がある」という見方をしない。
※この見方は被害者の人格を否定し，被害者救済を妨げるものであり，いじめを許容することになる。
- ③ いじめであるか否かは，被害者の受け止め方で判断する必要がある。
※「その程度で…」といった見方は，被害者の心情をかえって傷つける。
- ④ いじめを未然に防止することやいじめを早期に解消することは，児童の成長・発達にとって極めて重要な問題として受け止める必要がある。
※各学校では，全教職員の共通理解を図るとともに，保護者の理解と協力を得ながら，未然防止，解消等に全力を傾けなければならない。

2 いじめを生じさせない学校づくり（いじめの未然防止等への取組）

(1) 児童の心を受け止める感性を磨く

児童たちは、一人の人間として認められ、人間として生きたいと願っている。児童と共に活動することを通して、児童と感動を共有し、児童の側に立って理解を深めることが大切である。自分の心が児童に向かって開いているか、もう一度考え直してみる。

- ① 児童の感動する心を受容的に受け止め、児童の側に立って理解する。
- ② 教師自身が児童との関わりを通して、一人一人を受け止める感性や行動力を培う。

(2) 相手に共感する児童の心を育てる

児童同士が相手を受け入れ相手に共感する心は、児童の成長過程での豊かなふれあいを通して培われる。学級の中に自分の思いや考えを自分の言葉で素直に語り合える場を作り出し、一人一人の思いや考えを学級の全ての児童がしっかりと受け止めようとする姿勢を育て、心豊かな関わり合いを学級の中に根付かせる。

- ① 関わり合いを通して、相手の立場に立って考え、相手に共感する心を育てる。
- ② 学校生活の中で、児童と児童、児童と教師との関わりについて見つめ直す。

(3) みんなが協力して行う活動と体験の場を設ける

全ての教育活動、特に特別活動などの様々な機会をとらえて、児童が主体的、創造的に活動し、関わり合いを深める経験を実践する。また、児童同士が力を合わせて成し遂げる喜びを味わうことができる機会と場面を作る。

- ① 一人一人がもっている力を伸ばすようにする。
- ② 共に調べたり体験したりすることができるような学習の展開を工夫する。
- ③ 集団の機能を生かした「認め合い」や「深め合い」の場を設ける。
- ④ 自分たちで企画・運営し、考え合い協力し合う活動を設定する。

(4) 家庭・地域社会に開かれた学校

いじめ問題を克服するためには、学校と保護者との信頼関係の構築が最も重要である。様々な機会を通して、学校と保護者相互の情報交換や相談など、速やかに、誠意をもって行うようにする。また、学校と保護者が一体となって、いじめの問題に取り組む姿勢を児童たちに示すことが大切である。

- ① 地域を活動の場にしたり、地域の素材や人材を有効に活用したりして、地域の特性を生かした指導計画を作成する。
- ② 学校行事等への参加、協力を呼びかけるとともに、地域行事へ積極的に関わる。
- ③ 学校での諸活動の情報を、家庭や地域社会に積極的に提供していく。

3 いじめへの対応と指導のポイント

(1) 早期発見，早期対応

- ① 日ごろから，児童とのコミュニケーションを密に取り，児童にとって，何でも話せる，相談できる信頼関係を構築する。
- ② 学校において，児童の行動や生活の様子を見守る際，いじめの端緒を見抜き，いじめの早期発見・早期対応の視点をもつ。

※児童のサイン

いじめは発見しにくいもの，発見されにくいものであることをしっかりと認識しなければならない。そのため，注意深く児童を観察することが大切である。また，日常の行動や生活の様子からちょっとした変化でも見逃さない。特にいじめられる側の児童のサインを見落としてはならない。

(2) 児童のサインを受け止めるときの構え

- ① いじめられる側の児童たちはいじめの自覚がなく，単なる遊びのような気持ちでいることも多い。
- ② いじめは隠れたところで行われる。
- ③ いじめられる側の児童は，いじめの事実を訴えにくい心理状況にある。

※ 早期対応 「児童のサインを発見したとき，いじめの情報が入ったとき」

「ちょっと様子が変わったな」「いじめかな」と感じたとき，児童のサインを見つけたとき，いじめの情報をつかんだとき，速やかに対応に当たる。「このくらいのこと」などの思い込みは，いじめの未然の防止を妨げるばかりでなく，いじめの状態を深刻させ，いじめられている子の心理的なダメージを大きくする。

(3) いじめかなと思ったとき「いじめはどこにでもあると考える」

- ① 注意深く見守り，速やかに他の教師に相談し，一人で抱え込まず，複数の目で判断する。
- ② いつもと違う状態や行動の背景，児童同士の関係など，事の善し悪しについて即断せずに，全体像を正しくつかむ。
- ③ 指導を開始する時期を逸さない。速やかにいじめに関わっている関係者から詳細な聞き取りを行う。事実関係について，関わりが考えられる児童からの詳しい情報を得るときは，児童が自分から話そうとするようなときや場を考えたり，児童が話しやすい教員が当たったりするなど，最初の働きかけは慎重に行う。
- ④ いじめの情報の通報者が被害に合わないよう配慮し，傍観者への働きかけを並行して行う。
- ⑤ 先入観に惑わされたり，表面的な問題行動だけに目を奪われたりしないように，児童のサインを見直し，各方面のからいじめについて客観的な情報を得る。
- ⑥ 児童の「いじめられる側にも問題がある」という言い分は，いじめを正当化し，解決を困難にすることになるので取り上げない。
- ⑦ いじめている児童やいじめの周囲にいる児童の心理を把握した慎重な対応と指導を行うとともに，いじめの構造やその様相に留意して継続的に観察し指導に当たる。

4 いじめられている児童への指導・援助

(1) いじめられている児童の心理

※ いじめられている児童は、周囲に訴えられない

いじめは隠れたところで行われる。いじめる側の児童たちはいじめの自覚がなく、単なる遊びのような気持ちでいることもある。しかし、いじめられる側の児童は、いじめの事実を訴えにくい心理的な状況にある。また、いじめにあった児童は、その状況を親に話すと親を悲しませてしまう、困らせてしまうという心理が働き、孤立した状態にじっと耐えたり、誰とも親しくしないという防衛的な態度をとったり、いじめられていてもいじめと認めないようになってしまう。

- ① 児童の社会の問題を親や教師に訴えることは、児童の社会では暗黙のルールを破るものとして仕返しが恐ろしいと思っている。
- ② 自分にも原因があると考え、それを認めることはプライドが許さないという思いから、いじめられていないように振る舞うことがある。
- ③ 訴えた結果、親や教師の行動や指導が逆効果となり、前にも増して悪い状況になると予測して訴えることをあきらめている。
- ④ たとえ間違ったことでも、多くの児童に支持されればそれが集団のルールになる。仲間をいたいという気持ちから、訴えないことによって仲間関係を維持しようとする。

※ いじめられている児童の保護を最優先にする

まず、いじめをやめさせ、いじめから児童を保護することを最優先する。いじめられた児童の心情を理解し、児童の意向に沿って対応を図ることが大切である。「このくらいのことで」「遊びでやっているのだろう」などの思い込みは、いじめの状態を深刻にし、いじめられている子への心理的ダメージを大きくするばかりか、身体的な被害の増大を招く恐れもある。何よりも早期の適切な対応が大切である。

(2) いじめられている児童の訴えを受け止め指導するときのポイント

- ① いじめの訴えについて強く関心をもち、誠実に受け止める。何度かの訴えであっても、初めて聞くときのように耳を傾ける。
- ② いじめられている児童の心理や周囲へ訴えない心理は、様々な要素が重なって合っている。児童の立場に立って、その心情を感じ取っていく。児童のプライドを尊重する。
- ③ 訴えを聞くときは、うなずきながら、児童の言葉を繰り返していく。児童が混乱しているときは、内容を整理したり確認したりすることもあるが児童の話の流れに沿うようにする。
- ④ 話をせかせることはしない。詰まったり、話しづらそうなときは、そのときの児童の気持ちを言葉で伝え、児童が話し出すのを待つ。
- ⑤ 訴えを十分聞き取ってからいじめの事実について児童の訴えに沿い、整理し確認するとともに、今まで児童なりに努力してきたことを認め支持する。
- ⑥ 分かっているがいじめに立ち向かえない気持ちを理解し、性急に聞き出そうとはせず、じっくり時間をかけて指導する。

5 いじめている児童への指導

(1) いじめている児童の心理

児童たちの日常の心理の中から、いじめる行為の動機や、いじめの行為を行っているときの心理を次のように整理することができる。

- ① 友人関係をうまく作れない児童が、友人・仲間を求める。
- ② 欲求不満やイライラを晴らしたり、相手の言動に対して反発・報復したりする。
- ③ 相手をねたみ、引きずり下ろそうとする嫉妬心がはたらく。
- ④ 相手を思い通りに支配しようとする。
- ⑤ 自分の力を誇示し、集団を作り、仲間を支配下に置こうとする。
- ⑥ 遊び感覚で愉快的な気持ちを味わおうとする。
- ⑦ 感覚的に相手を遠ざけたい、近寄らせたくないなどの嫌悪感がはたらく。
- ⑧ 強いものに追従したり、数の多い側に入りたいと思う気持ちがはたらく。
- ⑨ いじめる側にいないと、いじめられる側になると思っている。

※ いじめる側の児童の指導のポイント

いじめる側の児童も、実は心の中に苦しみやストレスを抱えていることがある。それは、いじめる側の児童のサインとして表れる。また、サインを見付けたとき、個別の指導とともに 集団への指導が大切である。

(2) いじめる側の児童のサイン

- ① グループを作っていることが多く、児童同士の不自然な上下関係が見られる。
- ② グループの中で命令的な言葉遣いが多くなる。
- ③ 仲間の様子を気にしたり、お互いにサインを送ったりする。
- ④ グループ編成の時、特定の子を残す。
- ⑤ 特定の児童・生徒をわざとよけたり、軽蔑したあだ名で呼んだりする。
- ⑥ 小さな失敗や何でもない言動をはやし立てる。
- ⑦ わがままな言動、不合理な主張を当然のようにしている。
- ⑧ 不自然に持ち物が増えたり、お金の使い方が荒くなったりする。

(3) いじめている児童の心理を理解し指導するときの留意点

- ① 教師がいじめ行為を制止する一方で、日常生活に対する不満などの不適応感など、鬱積している感情を受け止めつつ、自己表現や対人関係の能力の向上を図るように援助していく。
- ② 自己中心的な言い分や主張に教師も巻き込まれることがあるので、いじめが起きている状況を客観的に理解することが大切である。
- ③ 仲間求め、欲求不満、嫌悪感や反発などさまざまな気持ちが重なり合っていることが多い。いじめている児童の心理を一面的に捉えて一斉に指導するのではなく、一人一人の心理を受け止めながら個別の指導に当たる。
- ④ 児童たちの集団の中で働く心理を理解して、児童たちが内面にもっている規範意識を行動に結び付けていく。
- ⑤ 一人で指導するのではなく、他の教師と組織的に指導を行う。

6 いじめの周囲にいる児童たちへの指導

※ いじめの周囲にいる児童は、いじめを見て見ぬ振りをする
いじめを止めることができなかつたり黙っていたりする児童たちは、「見て見ぬ振りをする」行動を
選ばざるを得ない心理状況にあると受け止めなければならない。

(1) 周囲の児童の心理

- ① いじめはなくなると無気力感にとらわれたり、いじめに関わりたくないと思ったりする。
- ② いじめを止めようと行動を起こすことで、自分がいじめの対象になることを恐れている。
- ③ 集団の遊びの中で、いじめかふざけか見分けがつかず、いじめをふざけや遊びだと思っている。
- ④ いじめられる児童に非があるので仕方ないと思っている。
- ⑤ いじめている児童が仲良しなので、止められずに黙っている。

(2) 見て見ぬ振りをする児童たちの心理を踏まえて

- ① 教師が断固としていじめをゆるさず、いじめの解決に向けて積極的な姿勢を示す。
- ② いじめを止めたり、いじめの情報を知らせたりした児童の立場を配慮して、その児童たちを個別に勇気付けるとともに、集団に対しては責任をもっていじめを止めることに専念する。
- ③ いじめと思われる行動を指導する際に、行動を一つ一つ取り上げて、「けんか」や「もめ事」などとは違っていることを具体的に知らせる。
- ④ いじめられている児童の痛みを思い、いじめを止める勇気を出すことの大切さを伝える。

7 教職員の組織的な指導体制の確立、保護者、関係機関等との連携

※教職員の指導体制や、関係機関との連携

いじめはさまざまな人たちからの訴えや情報があって発見されることが多い。全ての教職員が子どもたちを見ていくという指導体制が求められる。また、校長を中心とした学校全体で協力体制を整え、組織的にその解決に当たることが大切である。さらに、どのような訴えや情報であっても誠実に受け止め、「報告・連絡・相談」による組織的な対応を行っていくことが重要である。

(1) 指導体制の確立、連携のポイント

- ① 訴えや情報に対し適切に対応するため、担任一人が抱え込むことなく、いじめの訴えや情報の共通理解を図り、全教職員で取り組み、学校全体でいじめの問題の解決に当たることを示す。
- ② いじめが起きたときの具体的な取組、情報交換の仕方など教師間の綿密な連携を図る。
- ③ 日常から児童や学校の情報を保護者に提供し、信頼関係を築いていくとともに、保護者からの相談やいじめの情報の提供に、誠意のある対応をする。
- ④ 学校が指導したことについて、保護者の理解を得ながら教育相談所等の関係機関と連携していく。
- ⑤ 人権オンブズパーソンなどの教育相談窓口があることを児童や保護者に知らせる。
- ⑥ 学校内に「いじめ相談窓口」を開設し、児童・保護者に周知する。

8 発達段階によるいじめの特徴

※児童の発達段階によっていじめの特徴は異なる。

	いじめの特徴	指導上の留意点
小学校 低学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ちよっかいを出すような「たたく」「ける」「悪口を言う」「人のいやなことをする」などが多い。 ○自分の感情を上手に表現できないことからいじめが発生することが多い。 ○仲間を求めたり、欲求不満を伴ったりしたものが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師とのつながりが強いことから、教師が適切な指導を行うことによって、いじめられている児童が大きな打撃を受けることを未然に防止できる可能性が高い。 ○学級全体への指導とともに、いじめる児童一人一人へのきめ細かな指導や、日常的な友人との接し方や集団のルール、自己表現を促す指導が大切になってくる。
小学校 中学年	<ul style="list-style-type: none"> ○低学年のいじめの特徴に加えて、「仲間はずれ」「無視」などが加わり、心理的ないじめが目立つようになる。 ○同性の小集団が形成されるこのころ、集団になじめなかったり集団とは異なる雰囲気をもった児童を排斥したりするようになる。集団から排斥されることの精神的な打撃は大きい。 ○男女によってその表れ方も異なる。小集団による嫉妬心や支配欲を伴う事例が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師や周囲の児童にはいじめかどうか見分けにくいものが増えてくる。児童の小集団の動向や日常の交友関係に十分目を配り、いろいろな仲間と集団を作れるように配慮することが大切である。 ○人間関係について、教職員全体で見守ったり、保護者などと連携を深めたりすることが重要な時期である。
小学校 高学年	<ul style="list-style-type: none"> ○「しつこく悪口を言う」「仲間はずれにする」「無視する」など、心理的ないじめが多くなる。 ○いじめが実際に起こっていても「いじめがある」と認める割合が急激に減少するといわれている。 ○仲間集団が固定化され、その緊密さや対抗意識が激しくなり、それが基になりいじめに発展することが多い。 ○「リーダー格」の児童が現れて、小集団での支配欲がいじめに発展することもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○男女の特性の違いに十分配慮する必要がある。女子には、不安定な思春期の心理特性が早く現れることを十分配慮して学級内での集団の形成や個別の児童の行動や心理に目を配りながら指導することが求められる。 ○大集団によるいじめが発生する可能性があるため、学級内外の小集団の関係の変化に留意し、学校全体での情報交換や共通理解を図っていくことが必要である。
中 学 校	<ul style="list-style-type: none"> ○小集団内で仲間同士の悪口を言うなどから生じるいじめ、仲間内での優位性を誇示しようとするいじめ、仲間の結束を図るためのいじめなどが多く見られる。 ○生徒の集団形成が多様化・拡大化することから、大集団における嫌悪感を伴ったいじめや、反発・報復感を伴ったいじめが目立つようになる。さらに愉快感を伴ったいじめもしばしば見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大集団によるいじめは、いじている生徒も周囲にいる生徒も共通して罪悪感が乏しい傾向がある。 ○中心となっている生徒に対する継続的個別的な対応を行うとともに周囲にいる生徒を含む集団に対して、いじめの不当性を徹底して指導する必要がある。 ○非行を伴う場合は、学校全体でいじめられた生徒を守る体制を作り、いじている生徒に対しては、いじめ、非行の背景にも着目して学校全体で指導するとともに関係機関との連携も必要になる。

9 いじめの未然の防止や児童・生徒の変化を受け止めるための 教師用チェックリスト

<表情・日常の行動の様子>	Yes	No
① 元気がない・顔色が悪い・食欲不振などの状態が続く。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 不自然な擦り傷や打ち身などが見られる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 「先生は関係ない」と言ったり急によそよそしくなったり目を避けたりする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 先生に何か話したそうだが話せないでいる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 理由のはっきりしない遅刻・早退・欠席が増える。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 消極的、いつもつまらなそう、落ち着きのない態度などが感じられる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 特定の児童・生徒が席を避けられ、席替えて特定の子を避ける。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 班編成で避けられたり、なかなか班が決まらなかったりする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ 何かにおびえる、人目を気にする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ 保健室・職員室などに行きたがる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪ 周囲から反応がない。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑫ 嫌っているあだ名で呼ばれる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑬ 人目に付かないところ、トイレや階段の上り口に立っている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<身の回りのものの変化>	Yes	No
① 机・いす・ノート・かばん・ロッカーなどへのいたずら書きがみられる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 机・いすなどが壊される。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ もの隠し・靴隠し・上履き・外履きが移されたり、よけられたりする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 洋服やものに汚れ、靴の跡などが見られる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<休み時間、昼食時の様子>	Yes	No
① 一人ぼっちでいたり、いつも友達の後ろについていたりする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 一人だけ遅れて教室に入ってくる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ いたずらをされる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ プロレスごっこでいつも負ける役、鬼ごっこでいつも鬼の役にされる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<学習面>	Yes	No
① 発表するとやじられ、正しいことを言っても支持されない。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 忘れ物が急に増える。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 周囲の子によく物を貸すように言われる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 学習意欲の減退、成績不振。(うつむいている、発言が減るなど)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 突然、大きな声を出したり、奇抜なことを言ったりする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※ 教師は、少なくとも学期に1回程度は、一人一人の児童・生徒の様子をチェックリストを用いながら、いじめの早期発見・早期対応に当たるものとする。

10 いじめ防止校内体制

